

第2章 豊岡の風景の成り立ち ～風景のものがたり～

風景の成り立ちを知るために

風景は、目に見える豊岡の姿です。そこには、豊岡の豊かな自然風土、歴史や暮らしの文化、生業や経済活動などが映し出されています。

盆地を囲む山々、ゆったりと流れる円山川、変化のある海岸線など、毎日見慣れた自然風土はいつも変わることなく豊岡の景観を大きく特徴づける基盤となっています。この特徴ある風土のなかで、水や山との付き合い方など様々な知恵を引き継ぎながら改良を重ねてきた農業や漁業、城下の町場に始まる地域の中心商業、自然の恵みを活かす温泉宿など、多様な生業と暮らしが地域固有のまちなみや風景を形成してきました。

こうした生業や暮らしは、近代化や開発とともに新たな技術の導入やより便利な暮らしを求めて変化し、その変化によって地域の風景やまちなみも変わってきました。時代とともに求められる開発やまちづくりによって地域は変化するものですが、そのなかでも持続してきた出石城下や城崎温泉の町並みには時代を超えた落ち着きや歴史的価値を感じます。こうした町並みの価値を認め大切にしてきた出石城下や城崎温泉の町並みだけでなく、身近な生活風景にも地形や風土と長く折り合ってきた暮らしの知恵やふるさとの馴染み、地域を支える産業や賑わいに、変化しながらも生き続けている豊岡らしさを見ることができます。

その豊岡らしさの成り立ちを知ることが、未来にむけて豊岡の景観を守り育てていくための始まりと考えました。そこで、次の3つの見方から、豊岡らしい風景の成り立ちを読み解きその特徴をとらえていくことにします。

<風景の成り立ちをとらえる3つの見方>

1. 景観の基盤となる地形風土
2. 景観をかたちづくる暮らしと生業
3. 景観の意味を伝える記憶や物語

2.1 景観の基盤となる地形風土

豊岡盆地は、縄文期の海進（海面が上昇し河口から海水が進入）と海退（海面が低下し海水が引く）による浸食により形成されたことから、狭い平地の背後に山が迫り、どこにいても山並みが背景にあります。盆地から見る^{くるひ}来日岳、^{みひらき}三開山、その奥に^{こうりゅうじ}高龍寺ヶ岳や^そ蘇武岳、^{とこのお}床尾山などの山々が続きます。市域には^{まるやま}円山川と^{たけの}竹野川の2つの水系があり、それぞれに異なる谷筋を形成しています。また、日本海に面してリアス式地形である山陰海岸が続いています。

この盆地の地形と山並み、2つの流域の田園と谷筋、入り組んだ海岸、神鍋高原といった特徴的な地形が暮らしの風景の基盤となっています。

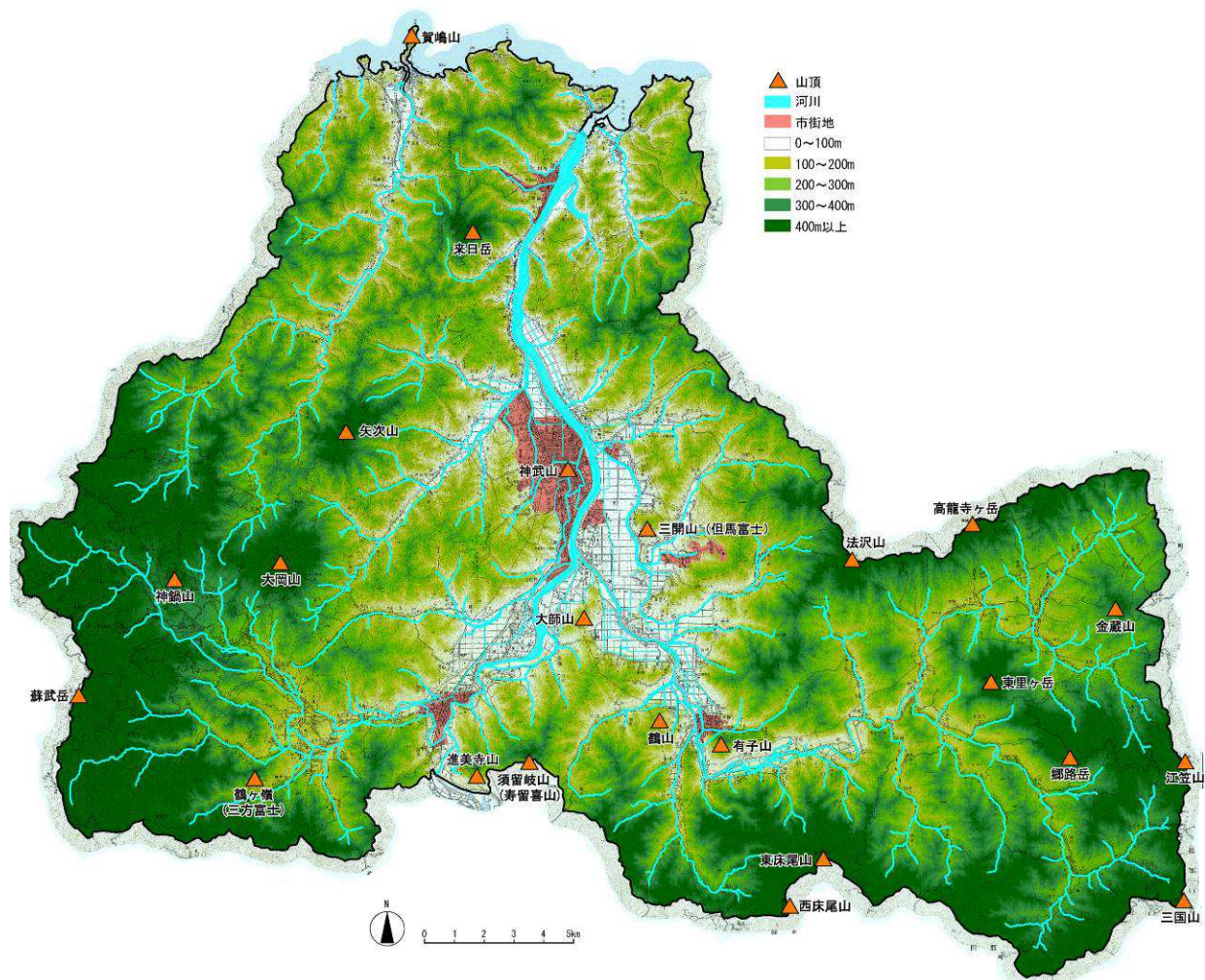


図 2.1 豊岡市の地形

1 山並み

毎日の生活の場において、どこからでも見える山並みですが、地形の成り立ちに応じて場所ごとに山のかたちの特徴があります。広がりのある豊岡盆地からは手前から奥に向かって色合いを変えながら折り重なる山並みが見えます。細長い谷筋では川の両岸に山並みが迫ります。集落やまちごとに呼び習わされた山の名前があり、地域のランドマークとなる山があります。

1) 盆地部

市域の中心部に位置する豊岡盆地や出石盆地では、円山川水系の恵みを受けた低湿地に田園が広がり、その平地部から周囲を眺めると、東に三開山(但馬富士)や法沢山、此隅山、有子山、西に大岡山や矢次山、南には床尾山や須留岐山、進美寺山、北に来日岳などの様々な山容の山々が連なります。この山々の稜線が幾重にも重なって固有のスカイラインを形成し、遠くの山ほど色合いが淡くなることから奥行き感のある眺めを生み出しています。

また、山裾は河川の浸食などの影響をうけ急峻なため、集落は、山裾と平野の境目や川筋に沿った谷底部分などに位置し、平坦な盆地部は生産の場である田園として最大限活用されています。このような場所に位置するまちや集落、田園からの眺めの背後には、必ず幾重にも重なった山々がアイストップとなって存在しています。



田園が広がる豊岡盆地から見る山並み



有子山から望む出石盆地

2) 山間部

郷路岳ごろうや高龍寺ヶ岳、蘇武岳みかわ、三川山などの山々から流れる支流は、幾つもの谷筋を形づくりながら、市域中央部の盆地へと流れ込み円山川などに合流します。

細長く狭い谷筋の中央部を流れる川沿いには農地が続き、急峻な山際に多くの集落が分布しており、山の斜面が間近まで迫っています。

谷から少し上がった開けたところに分布する集落からは、急峻な谷筋と山並みの稜線を眺めることができます。

2 河川

市域の中央部を南北に縦断する円山川水系と竹野地域を流れる竹野川水系が骨格となり、個性ある流域が形成されています。暴れ川と言われた円山川との闘いの歴史、多様な谷筋が形成された竹野川の歴史が、現在の流域の風景を特徴づけています。

1) 円山川水系

円山川水系には、市域東南部の出石町・但東町に水源のある出石川水系と市域西南部の日高町に水源のある稲葉川水系の2つの大きな支流があります。

円山川は、陸上交通が発達するまで水運が盛んで、本市の経済や文化の発展に大きく貢献し、私たちに多くの恵みをもたらしてきました。しかし、豊岡低地ともよばれる豊岡盆地の中を大きく蛇行しながら流れていたため、人家を流し田畑を泥沼に変える大水害が頻繁に起こり、大昔から人々を苦しめてきました。江戸時代以降、幾度となく築堤等の改修工事が行われ、特に大正9年から昭和12年までに行なわれた大改修では、大磯の大曲も解消されて河道も大きく変わり、昭和31年からの大規模な改修工事により大きな水害が起きる頻度は昔に比べ少なくなりましたが、現在も人々の暮らしと水との折り合いの歴史が景観として現れています。円山川水系の下流域にあたる豊岡では、豊岡盆地から河口部までの約16 Kmは河川勾配が非常に緩やかなため、湖面を思わせるようなゆったりとした流れで、両岸に広がる田園は円山川の勾配と同様に平坦で地盤高が低いことから、コウノトリなどの生息に適した湿地状の環境が生み出されています。この低湿地の盆地中央に築かれた円山川は、河口部付近を除いて高い堤防により形づくられているため、直接水辺を見ることができませんが、その規模も大きくどっしりとした存在感があり、集落やまちなかの縁端部などからも望むことができるため、本市の風景の骨格となっていることがよくわかります。また、主要な道路が堤防上や堤防際に配置されているため、日頃から円山川の雄大な風景を眺め楽しむことができます。

河口部の玄武洞付近から日本海にかけての約6 Kmの区間は、両岸に山が迫り沖積低地が極端に狭く、最下流部にもかかわらず上流部のような独特の風景を創り出しています。この地域では、山裾（水際）の少し上部に道や集落が位置し、海に近いことから無堤防のところもあります。また、下流域の中洲や河川敷などには、豊岡の伝統工芸である柳行李の材料コリヤナギが自生しています。

円山川上流部の出石川水系・稲葉川水系では、河床勾配がやや急流となっており、山間部の所々に谷底平野が形成され、広い盆地部とは異なった風景を形成しています。

このように自然豊かで、私たちに多くの恵みをもたらす円山川ですが、大雨などによる出水時には、その風景が恐ろしいほどに変化することがあり、人々の暮らしや生業の風景とも密接に関係しています。



円山川からのまちや山並み



最下流部にも関わらず山が迫る円山川

2) 竹野川水系

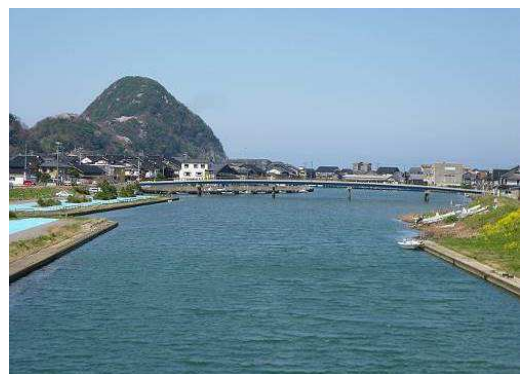
竹野川水系は、円山川水系と比較すると河床勾配が高く急流で、河口部では硬い地質の山地がないことから、下流部にいくほど沖積低地の幅が広がる三角州性低地が広がっています。

竹野川は、全長 21.2 km で三川山付近を源流にし、途中、桑野本川^{くわのもと}や三椒川^{さんしょ}などの支流と合流しながら日本海へと注いでいます。

支流は60～70にのぼり、狭い谷筋の限られた平地が耕地として利用され、その周囲に集落が形成されるなど、谷筋の中に位置する耕地と集落の関係により独特の風景を創り出しています。



狭い谷間の竹野川(桑野本川分岐付近)



三角州性低地が広がる竹野川河口部

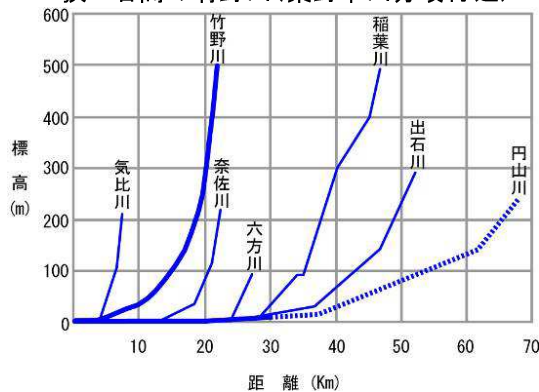


図 2.2 豊岡市の主要河川勾配図

本市を流れる円山川は、勾配がほとんどなく、低地を非常にゆっくりと流れる日本でもとても珍しい河川です。一方、竹野川は、源流が市域にあり、狭い谷間を日本海まで急速に流れ出ています。

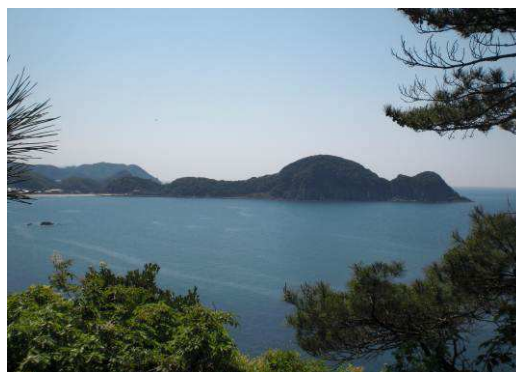
3 海岸

山陰海岸国立公園に指定されている日本海沿岸部は、平成 22 年に世界ジオパークにも認定されるなど、岬や入り江が複雑に入り組んだりアス式沈降海岸を形成しています。海岸部には、白砂青松の竹野浜や^{けひ}気比の浜、はさかり岩、^{よど どうもん}淀の洞門などの奇岩、洞窟、洞門などの雄大な海食地形が形成されているほか、入り江には小さな漁村集落が点在する独特の風景が形成されています。

竹野浜から約 1,200m 突き出した^{ねこさき}猫崎半島は兵庫県の最北端であり、沖合いから見ると猫が両耳を立てた姿に似ているのでこの名が付けられたといわれています。また、海岸沿いの道路から見るとキューピーさんが仰向けに寝ているようにも見えます。



浸食によりできた奇岩“はさかり岩”



県最北端の猫崎半島

4 高原

円山川流域の盆地平野以外の山間部は、急峻な山々のなかで谷筋や山の斜面に田畑がつくられているものの平地の少ない地域となっていますが、稲葉川上流には 1,000m 級の山々の中に神鍋山の火口を中心に平地が広がる神鍋高原があります。この高原の穏やかな傾斜地では主に田園や果樹園などの農地として利用されているほか、グラウンドやテニスコートなどのスポーツ施設が整備されています。また、勾配がある山裾付近ではその傾斜を利用してスキーやパラグライダーが行われるなど、四季を通じて観光やスポーツ、レクリエーションの場として利用されています。

また、竹野川水系の竹野町^{みはら}三原や出石川水系の但東町高龍寺などの上流地域でも、規模は小さいながらも高原状の地形が見られる地域があり、集落と棚田とが調和した開放的な風景を形成しています。



高原状の地形が見られる山間部
(但東町高龍寺)



神鍋山の火口を中心に広がる神鍋高原

5 地質

今から約9,000年前の氷河時代の後氷期の頃、古豊岡湾と呼ばれる大きな入り江（黄沼(きぬ)の海）が出石町や日高町まで広がっていました。ここに山間地からの土砂が堆積し、やがて海水面が低下して、徐々に豊岡盆地が形成されました。

そのため、豊岡盆地の地盤は、ゆるい砂や軟弱な粘土層が深いところで40m以上も重なっており、盆地の中央部に円山川が流れる日本でも有数の軟弱地盤となっています。しかし、このことがコウノトリをはじめとする多様な生物が生きることのできる素晴らしい自然環境を生み出しています。竹野川についても同様に、竹野町 ^{とどろき} 轟・鬼神谷から竹野町下塚付 ^{しもづか} 近まで海水が入っていたと推定されています。

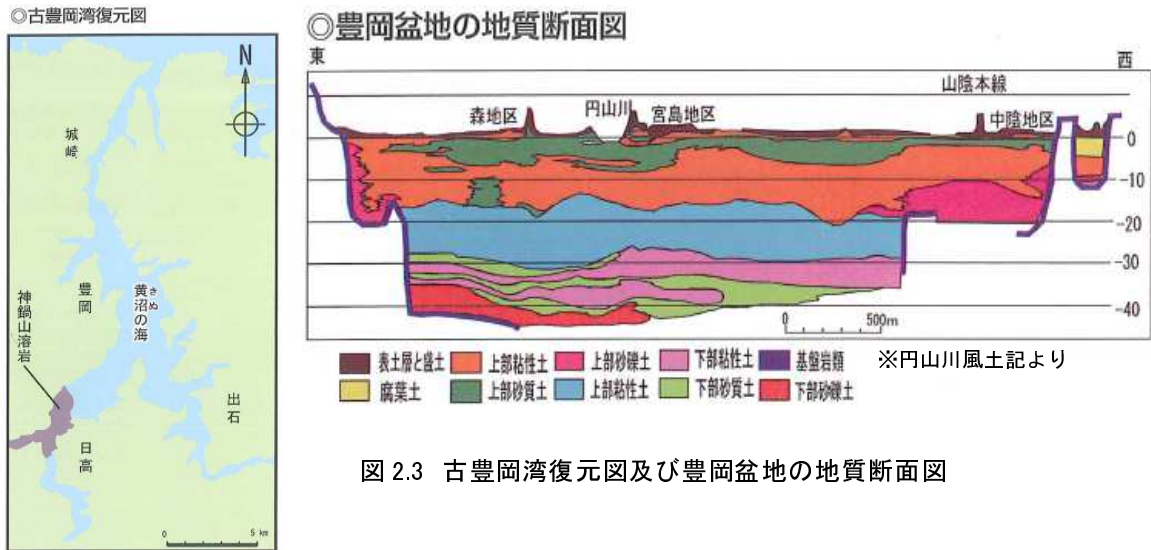


図 2.3 古豊岡湾復元図及び豊岡盆地の地質断面図

山地部の多くは、兵庫県内の他地域と同様、花崗岩（東部：出石山地）や流紋岩・安山岩（南部・北部中央）といった火成岩、ならびに礫岩・砂岩・泥岩及び石英安山岩質火砕岩（北東部・西部）といった堆積岩で形成されています。

なお、市域のなかで特徴的な地質を示すのは、玄武洞付近および神鍋山付近の玄武岩、但東地域の蛇紋岩、竹野地域の青井浜付近で採れる青井石です。

こうした地質による特徴的な石が建材として使われることが、地域固有の色合いを生み出しています。玄武岩の深い黒灰色、冷えた溶岩流の黒っぽい色合い、青井石の黄色と青色、蛇紋岩の青色は、それぞれに地域を特徴づけてきました。

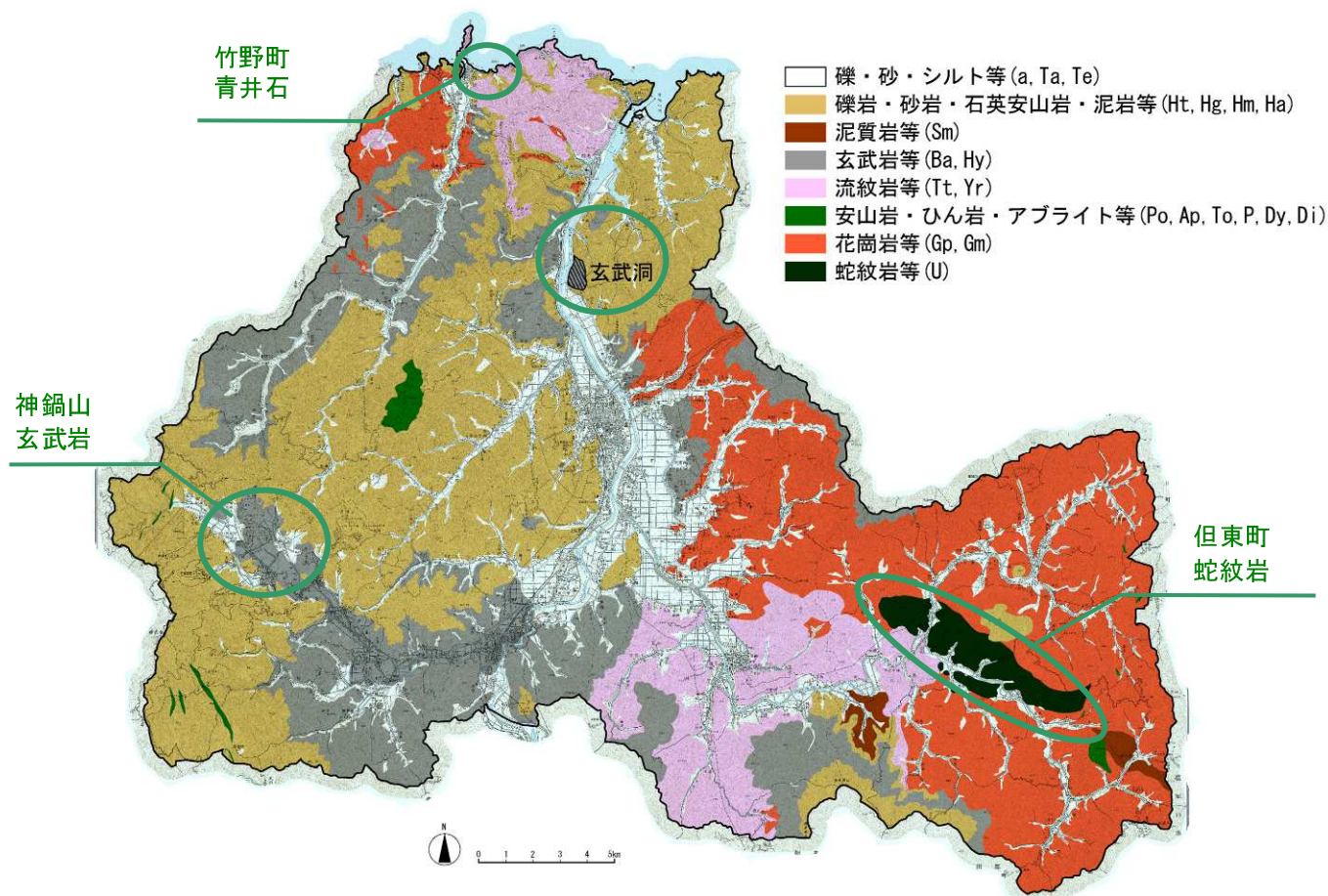


図 2.4 地質分類図

1) 玄武洞

玄武洞は「玄武岩」という岩石名（邦名）の起源となった地として著名であり、美しい柱状節理を見ることができます。過去に地球磁場逆転期が存在したことを証明する場となり学術的にも価値があることから、昭和6年に国の天然記念物に指定されました。また、平成22年に世界ジオパークネットワークへの加盟が認定された山陰海岸ジオパークにおいても、主要な地域の1つとなっています。

玄武岩は、円山川の水運が発達していた頃、玄武洞から出石町や日高町まで船で運ばれ、特に豊岡盆地の多くの場所で、水害から家屋を守る石積みや階段に用いられ町並みを特徴づけています。また、漬物石や庭石などにも使用されています。



美しい柱状節理の青龍洞(玄武洞公園)



水害の歴史がよくわかる石垣(赤石)

2) 神鍋山

約一万年前に玄武岩質マグマによる火山活動が始まり、神鍋山の噴火によって噴出した溶岩は、神鍋高原を覆い、稲葉川沿いに流れ下り、十戸じゅうごの滝をつくって、日高町土居どいにある円山川の蓼川井堰たがわいせき付近まで到達しました。とりわけ稲葉川流域では、河川の浸食により、地質的特徴が現れており、今は、その美しい景観美を観光資源として活用しています。

噴出した玄武岩は、日高町栃本とちもとや頃垣ころがきなどの神鍋山付近の丘陵地の集落で、敷地の石垣などに利用されて暮らしの風景に現れています。



神鍋高原の中央にある神鍋山



溶岩を利用した石垣(日高町頃垣)

3) 蛇紋岩

蛇紋岩は、豊岡市東部の但東町高橋たかはし地区や合橋あいはし地区で見られ、県内ではほかに養父市関宮せきのみや地域にのみ確認されている珍しい鉱物で、一連のものと考えられています。

出石川沿いや集落の裏山では露出した蛇紋岩を見ることができるほか、公共施設の敷地や修景材の石垣などに利用されているなど、地域の風景に溶け込んでいます。



川筋に露出している蛇紋岩(但東町平田)



庭の石垣に利用されている蛇紋岩
(但東町正法寺)

4) 青井石

青井石は、竹野地区の青井浜付近で産出される凝灰岩系の石で、黄色もしくは青色の美しい石です。市域の広い範囲で使用されており、かつては北前船により全国各地にも運ばれていました。竹野地区では、鷹野神社の鳥居や燈籠をはじめ、家の土台部分など生活文化の様々な用途に使われています。



青井石の石切り場跡(竹野町竹野)



鳥居や灯籠などにも加工されている青井石
(竹野町竹野:鷹野神社)

6 植生

「山陰海岸国立公園」をはじめ「氷ノ山ひょうの後山那岐山せんのうしるやまなぎさん国定公園」、「但馬山岳県立自然公園」、「出石糸井県立自然公園」などの指定により、豊かな自然が残されています。季節により、気候条件により、毎日のように山々の色合いが変化し、四季折々に多様な風景が楽しめます。

市域の約8割が森林であり、集落の背景となる山々は、二次林とスギ・ヒノキの植林地で占められています。但東町においては、特にスギが山奥まで多く植林されています。また、海岸部ではシイ林や風傾したクロマツ等が見られます。

樹種が混ざる二次林は新芽や紅葉の時期、花のあるときなど、季節ごとに色合いを変える山並みとなり、植林地は年間を通じて黒っぽい山肌となり、それぞれに色合いの異なる暮らしの背景となります。こうした山はこれまで生活に近く、日常的に人が

山に入ることによって山の環境が保たれて美しい山並みとなっていました。災害や森林の管理が行き届かず山が荒れたり、無秩序な伐採が行われたりすると、見慣れた山の風景が変わっていくことになります。

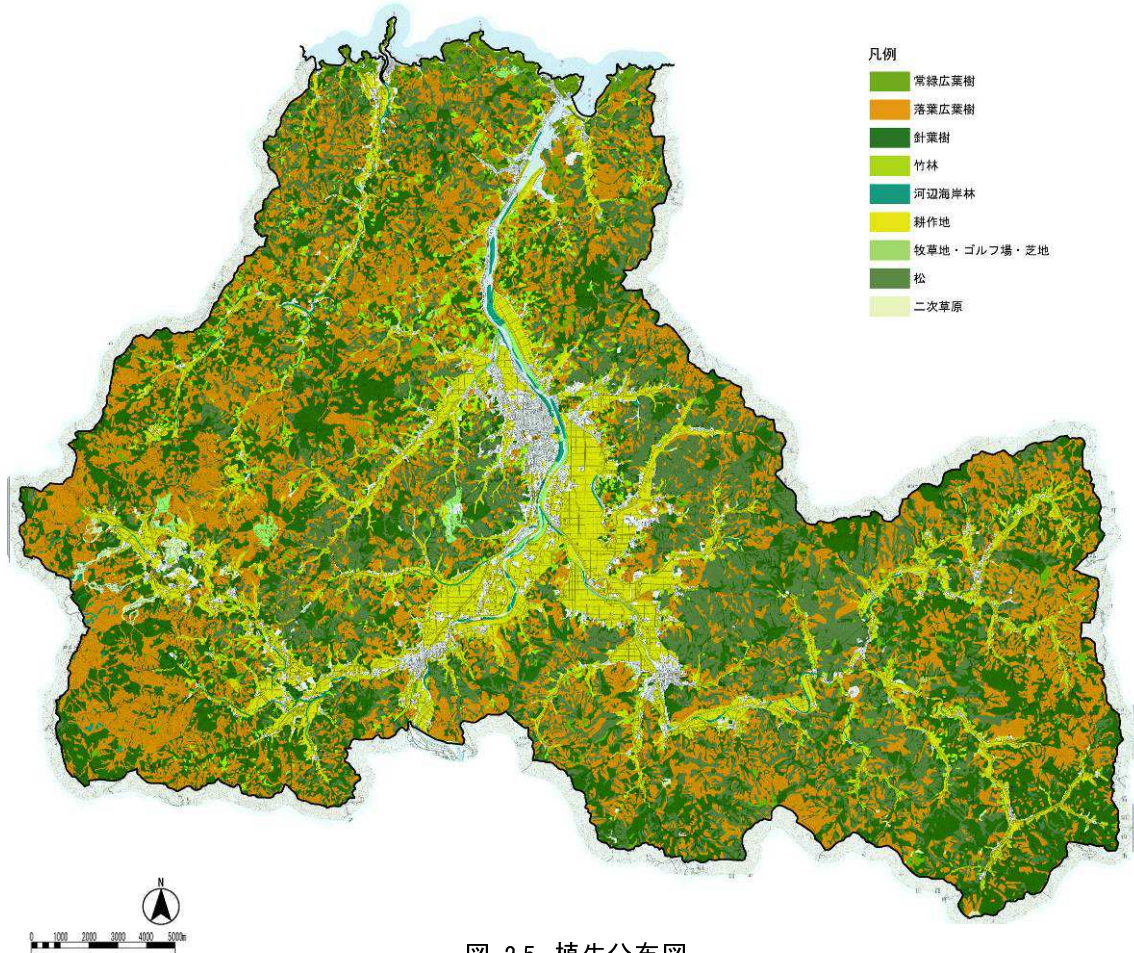


図 2.5 植生分布図

1) コウノトリを育む山の松と田んぼの雑草

円山川を中心に広大な農耕地帯がある豊岡盆地や出石盆地などは、コウノトリの生息地として最適な環境であり、かつて出石町細見の鶴山^{つるやま}などの山の松には、たくさんのコウノトリが巣をつくり多くの見物客で賑っていました。

田園の植生環境は、大規模な耕地整理等により泥田や湿田が乾田化され除草剤の散布などにより激変してしまいましたが、環境への取り組みを積極的に行うことにより、絶滅危惧種の水田雑草のミズアオイなども近畿最大規模で自生しています。また、コナギヤスギナなどの背丈の低い雑草が多く、コウノトリが餌を見つけやすい環境といえます。

2) 防風林

各地で庭木としても植えられている松は、竹野浜や気比の浜などでは、防風林や砂防林として重要な役割を果たしており、奇岩絶壁の景勝を引き立てる天然の黒松と共に山陰海岸の美しい風景を創出しています。

3) 川沿いの河畔林と葦原

円山川や竹野川には大小の帯状の河畔林^{かはんりん}が広がっており、春の新緑や秋の紅葉時にはとても美しい川辺の景観となります。特に日高町上郷^{かみのごう}周辺では、長さ約1km、最も広いところで幅が100mの河畔林があり、多くの生物が棲息しています。また、城崎町付近の円山川下流部には、渡り鳥の休息地となっている葦原が広がる中州や河川敷があり、その風景は円山川を情緒豊かなものにしていきます。

4) 地域の象徴となる並木や社寺林

城崎温泉^{おおたに}の大谿川沿いの両岸にある柳と桜の並木は、和の温泉情緒を引き立てており、佐々伎神社^{ささき}（但東町佐々木）や徳神社^{とく}（出石町奥山^{おくやま}）にある「なんじやもんじやの木（カゴノキ）」など、各地域には景観上重要なシンボルとなっている樹木が多くあります。

また、猫崎半島の賀嶋山^{かしま}は、常緑樹の原生林で覆われ竹野町のシンボルになっています。



鶴山の松に巣をしていたコウノトリ
(出石町細見)



円山川の河畔林(日高町上郷)

7 気 候

日本海に面する豊岡は日本海型気候に属するものの、独特の盆地地形など複雑な地形のため、夏は日本一蒸し暑くなる日もあり冬は積雪が多く厳しい寒さが続く、寒暖の差が大きい風土です。また、昔から「弁当を忘れても、傘を忘れるな」と言われるほど、降雨の多いところでは。こうした独特の気候風土が、生活風景に四季折々の変化をもた

らします。

晩秋から冬は、北西の季節風によって鉛色の陰鬱な冬空が続き、日本列島が典型的な西高東低の気圧配置になると多量の雪が降り、人々は道路の除雪や屋根の雪下ろしに追われます。

豊岡の霧発生日数は、近年若干減少しているものの年間平均90日程度発生しており、実に4日に1日の割合で霧が発生します。特に、豊岡盆地の円山川を中心に発生する川霧はとて有名で、人々を幻想的な世界へと誘います。また、来日岳から眺める雲海は墨絵のような美しさで、朝日が昇り始めると日本海に滝のように流れ込む様子はとても感動的です。



雪深い集落(竹野町三原)



滝のように日本海に流れ込む来日岳の雲海

2.2 景観をかたちづくる暮らしと生業

1 農山漁村の暮らしや生業の景観

豊岡では、山地、平地、沿岸など様々な地形や自然の地域特性と折り合う暮らしや自然の恵みを生かした生業が行なわれてきました。谷底平野や谷の中心となる河川、その周辺を形成する山、河川沿いに広がる水田、山際や谷間に連なる農地、集落の家並みが大切な景観要素となり、これらが一体となって、四季の変化に富んだ自然美あふれる農山漁村の景観を形づくっています。この暮らしや生業によって創出される生活の場としての景観特性は、大きく「平地（低地）集落景観」「谷沿い集落景観」「沿岸部集落景観」の3つに分類して、集落の景観の成り立ちを観ることができます。なお、近年社会情勢等の変化により耕作放棄地や里山の維持管理ができないことにより、様々な問題が生じているところも見受けられるようになり、農林水産業の持続性を確保することが景観上も重要な課題となっています。

1) 平地(低地)集落景観

円山川水系、出石川水系の広い谷底平野（豊岡盆地）部分に位置する集落の景観を平地(低地)集落景観と分類します。豊岡盆地は豊岡市の最も広い平野であり、その中心を流れる円山川と出石川に沿って広がる田園が豊岡を代表する美しい集落景観を見せています。コウノトリの野生復帰の取り組みはこの地域を中心に行われており、のどかで広がりのある田園の景観はコウノトリと人々の共生を感じさせます。

平地集落景観は「円山川・出石川沿い集落」と、「山際集落」に分けられます。「円山川・出石川沿い集落」は平野部の河川に沿って立地する集落であり、「山際集落」は豊岡盆地を形成する平野部周辺の山々の裾野に位置する集落です。

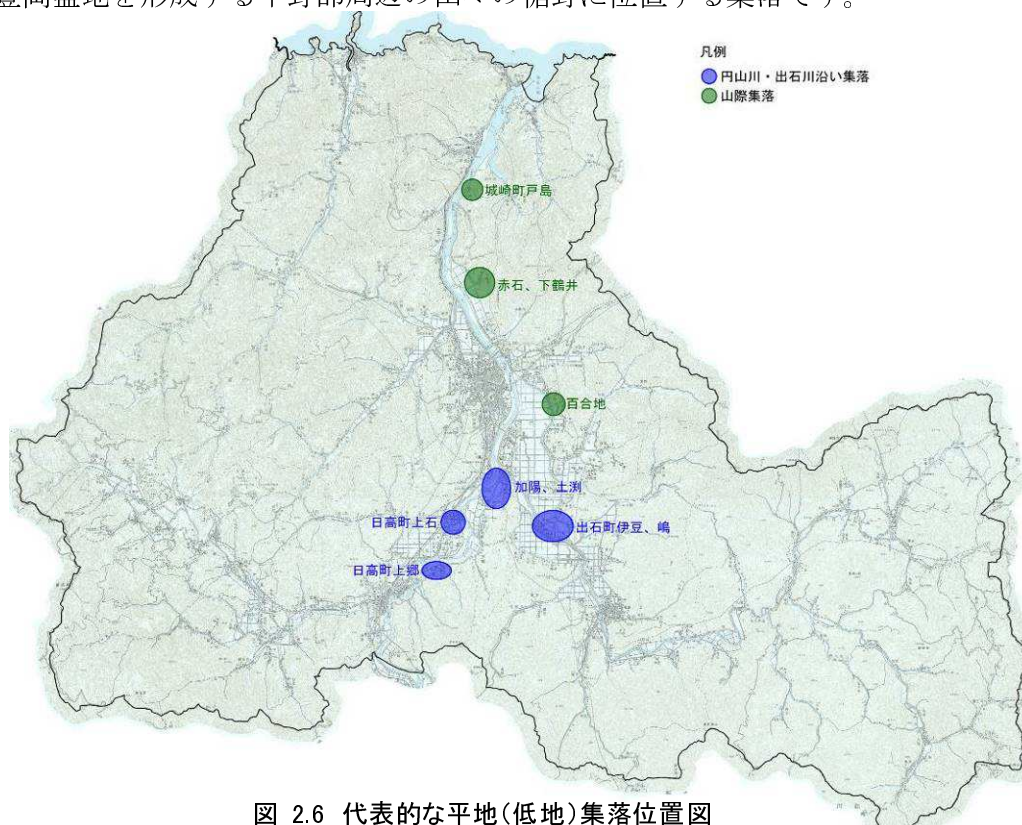


図 2.6 代表的な平地(低地)集落位置図

① 円山川・出石川沿い集落

日高町上郷や上石、加陽や土湊、出石町伊豆や嶋に代表される地区が「川沿い集落」です。日高町上郷では、河川に河畔林が分布し、河畔林と土手の間の河川区域内には農地が広がっています。その土手沿いに集落が立地し、集落のまわりには水田が広がり、里山へと繋がっていく景観を作り出しています。また、河川と河畔林やヨシ原と農地や集落が一体となった景観は円山川に沿いながら広がりのあるゆったりとした景観を形づくっています。

日高町上石や加陽では家屋が玄武岩や溶岩を利用してつくられた高い石垣の上に建てられていますが、これは過去幾度となく水害に見舞われ、河川の氾濫に対してより高い屋敷基盤を形成してきたことを物語っています。その一方で、ゆったりと流れる水は生活に利用されており、集落を流れる水路には洗い場が設けられています。何段にも積み上げられた石垣とその下に設けられた洗い場には、人々の暮らしと水との関わりが景観として現れています。

豊岡盆地の円山川、出石川沿いには、豊岡から出石への街道であった出石街道沿いの集落である清冷寺、伊豆、嶋、豊岡と江原や八鹿を結んだ豊岡往来沿いの府市場や土居といった集落が位置しており、土手の向こうに屋根並みが見える様子が美しい景観を見せています。円山川の水運が盛んであった頃に、「イト」と呼ばれる船着き場がたくさんあったことから、かつての川との繋がりを物語るように土手に沿うように集落が立地しています。



円山川沿いの河畔林・田園・集落など
(日高町上郷)



玄武岩を利用した石垣(沖加陽)



石垣と洗い場(日高町上石)



河沿いの屋根並み(下加陽)

②山際集落

百合地の位置する新田、赤石や下鶴井の位置する田鶴野、城崎町戸島に代表される地区が「山際集落」です。

円山川から盆地外縁部の山までの平たん地が一体となった広がりのある景観が特徴となっており、平地部には広大な農地が展開し豊岡を代表する穀倉地帯としての豊かな実りの景観が見られます。豊岡盆地の右岸に広がる水田は「六方田んぼ」と呼ばれ、スケールの大きい雄大な広がりを見せており、初夏にはこれらの水田の中に建てられた巢塔でコウノトリがヒナを育てている様子が見られます。六方川は低地をゆったりと流れており、瀬や淵といった流れの変化が見られる場所が点在し、ヨシなどの湿地性の植物が見られるなど、多様な植物が繁茂して緑豊かな自然溢れる田園らしい景観を呈しています。

一方でこの地域は、海拔が低く、山から流れ出てくる内水と緩勾配の円山川によって、水害の起こりやすい所でもあります。集落は、その地形的な特徴から、山の裾野の少し標高が高い所に玄武岩の石垣を築いて宅地基盤をつくり、蔵は更に石垣を積んで水に浸からないような工夫がみられ、この石垣がつくり出す景観が特徴的といえます。また、玄武岩と瓦屋根、板壁に漆喰を利用したグレーの色調の中に漆喰の白が映える美しい家並みとなっています。

これらの集落が裾野に立地する盆地周辺の山々は、山裾が急峻で中腹部がなだらかな丸みのある地形をしており、その後ろに幾重にも重なる山並みが見えるのも特徴です。六方田んぼの南東側には、丸みのある山々が連なる中に、但馬富士と呼ばれる美しい円錐形をした三開山が位置しています。

山際集落では、ゆったりと流れる円山川と雄大な水田、丸みを帯びた山の裾野に連なる集落という豊岡盆地の特徴的な景観をつくりだしています。

円山川の下流の城崎町戸島あたりになると、山が川に迫り、平地部分が少なくなっています。集落は山際に位置し、円山川と山との間のわずかな土地に細長い水田がつくられており、楽々浦、戸島、赤石などの集落の水田は、土地改良事業によって客土が行われるまでは、「ジルタ」と呼ばれる湿地が広がっていました。これらの水田と川沿いに続く葦原が、それぞれ曖昧に繋がりを持っていて、湿地景観を形づくっています。

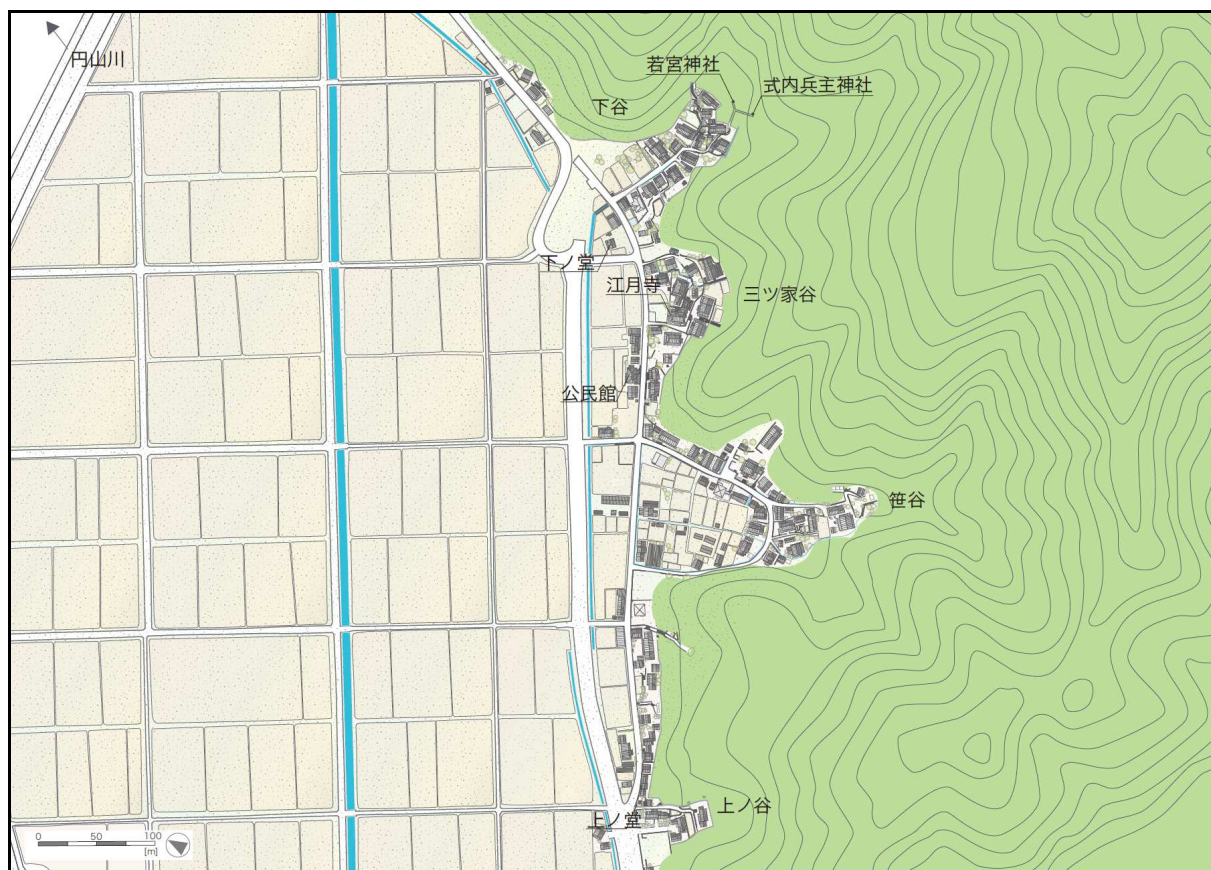


図 2.7 赤石地区の平面図



六方田んぼのコウノトリ(百合地)



石が積まれた宅盤(百合地)



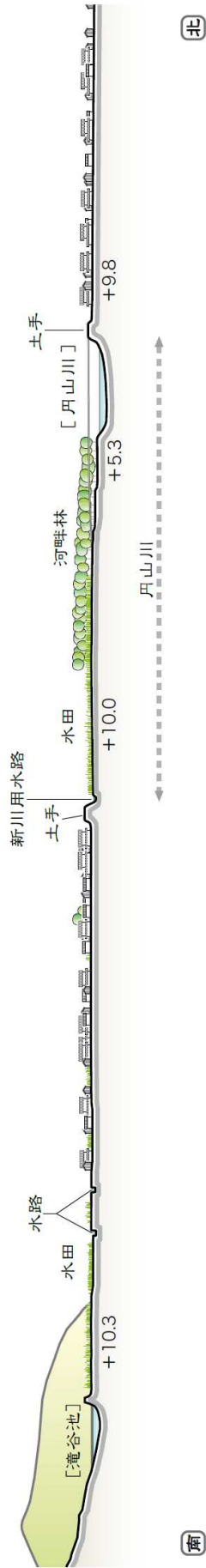
六方田んぼと山際の集落(河谷)



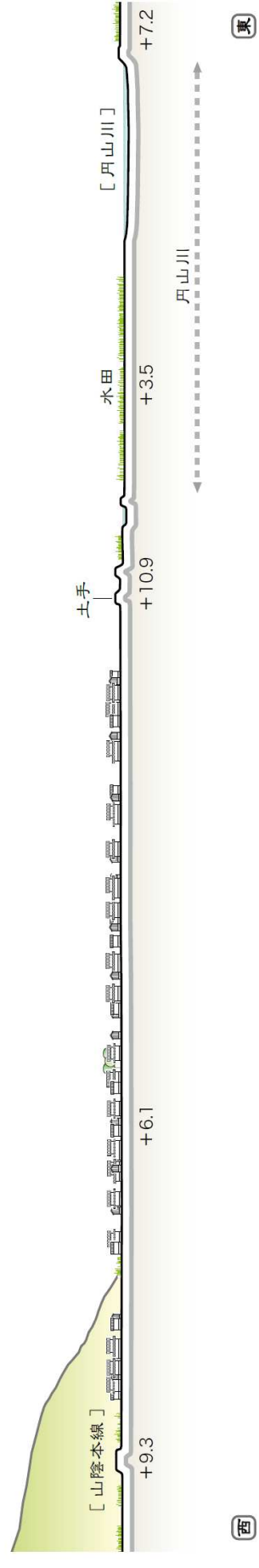
円山川と山に挟まれた戸島湿地
(円山川最下流)

平地(低地)集落

① 円山川・出石川沿い集落(日高町上郷)

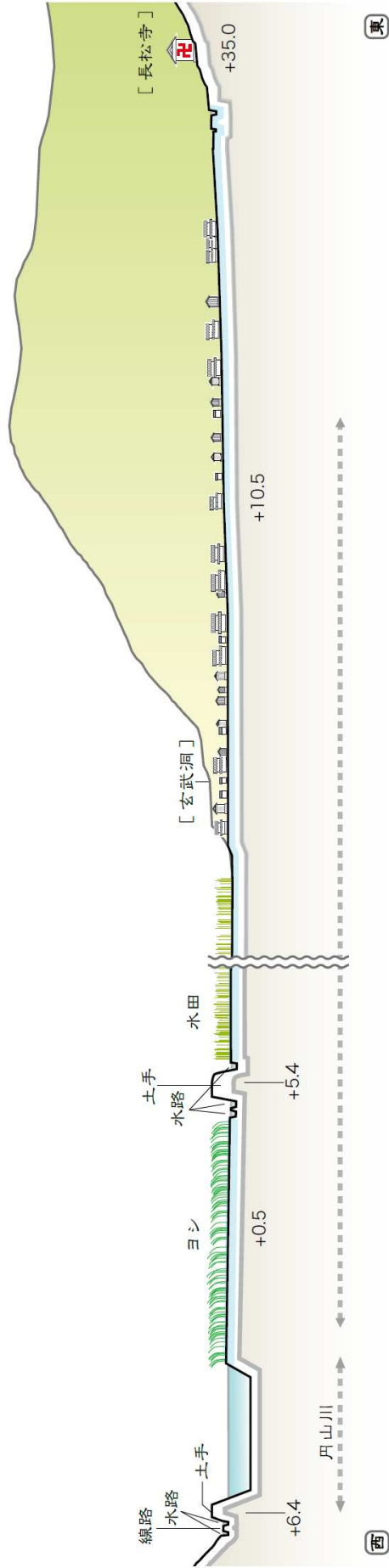


① 円山川・出石川沿い集落(日高町上石・西芝)

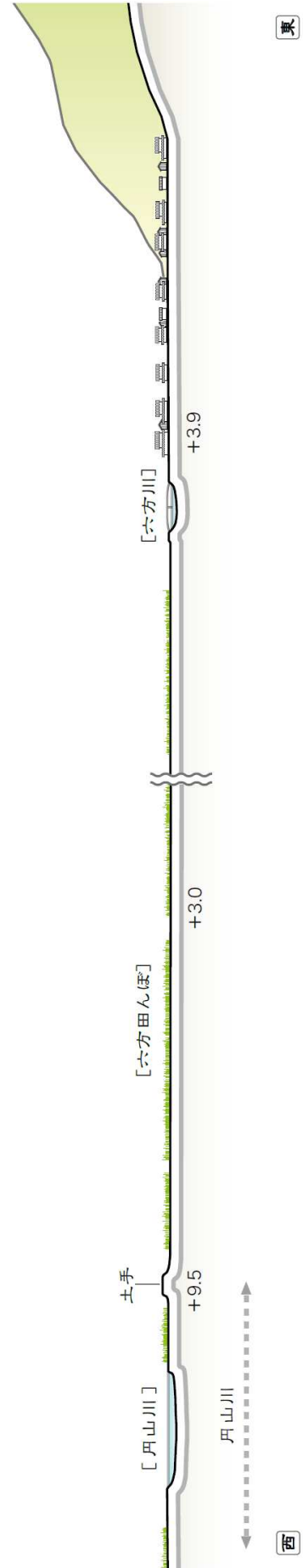


平地(低地)集落

② 山際集落(下鶴井)



② 山際集落(百合地)



2) 谷沿い集落景観

谷沿い集落景観は、出石川上流部、稲葉川、竹野川とその支流沿いの、山が連なり、川を中心に長くゆったりとした谷に位置する集落です。「たじま」は「たにま」に由来するとも言われ、長い谷が連なり、その谷に沿って集落が位置しており、この長い谷は但馬の特徴とも言われ、豊岡全体に多く見られます。

谷沿い集落は、「谷底平野集落」「谷間集落」「高台集落」に分けられます。

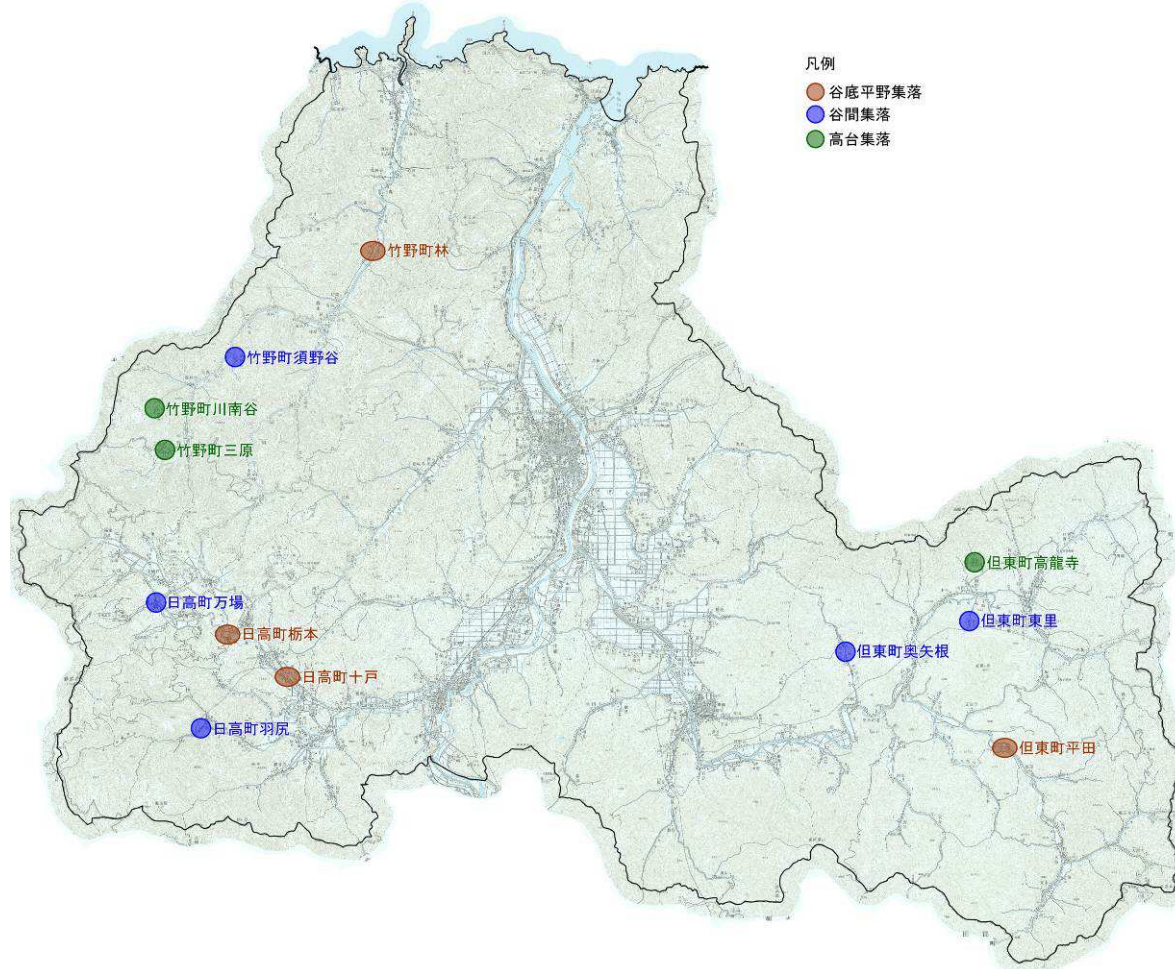


図 2.8 代表的な谷沿い集落位置図

①「谷底平野集落」

但東町^{ひらた}平田や日高町十戸や栃本、竹野町^{はやし}林に代表される地区が「谷底平野集落」です。

河川を中心とする緩やかで長く続く谷の中に集落を形成しています。家屋は山際や川沿いに位置し、その周りに水田が広がり、山裾には棚田や段々畑がつくられ、それらが一体となった里らしい景観をつくっています。谷の両側に連なる山からは湧き水の出ている沢が流れ、その水は集落内の水路に引水されて洗い場や防火用水としても利用され、生活と水の結びつきを感じさせるせせらぎの景観となっています。

但東町平田は、谷が少し広くなったところに位置し、出石川が谷の中心を流れて河

川周辺の平地は水田に利用され、それらを囲むように谷の両側の一段高くなった山際に沿って、丸く列状に集落が立地しています。また、山を背にして佇む集落の前には、水田が広がり、その中心を川が流れています。谷を構成する山と、山際の列状に並ぶ集落、谷の中心部に流れる河川と水田の広がり为一体となった景観を見せています。

但東町の出石川沿いを上流に向かう道は丹波への道として、太田川沿いの道は丹後街道として利用されてきました。但東町木村、中山なども平田と同様の景観を有し、長い谷に連なる街道村の風景を見せています。民家には、赤茶色の瓦や漆喰といった明るい色の素材が利用されており、蛇紋岩を利用した石垣ともに但東町特有の景観が見られます。

日高町十戸や栃本は、谷の中心を流れる稲葉川に沿って位置する集落です。この辺りは神鍋山の溶岩台地にあたり、稲葉川には瀑布などの溶岩が作りだした独特の景観が見られます。日高町十戸は、この溶岩台地に蓄えられた水が湧水として地表に湧き出る所に位置しており、地区内に湧き出る湧水を水路により宅地に隣接する養魚池に流し入れ、鱒の養殖をしています。湧水の水源にはワサビ田やセリが自生する湿地があり、水路にはバイカモが見られます。

この溶岩台地は、神鍋高原の辺りでは平坦な高原地形を見せ、名色^{なしき}辺りから南東に向かって段丘状に低くなっており、日高町十戸や栃本はこの段丘地形に位置し、棚田や屋敷地はムシイシと呼ばれる黒みがかった溶岩の石垣で築かれ、クロボク土と呼ばれる火山灰土の土も黒い色をしています。民家はかつて盛んであった養蚕^{ようさん}業に対応したものが多く残っており、養蚕農家と称され、3階建てや2階部分の階高が高いという特徴が見られます。屋根瓦は黒いものが多いですが、赤褐色ものも見られます。壁は黄色みのある土壁や漆喰が使われています。

荒々しい溶岩の姿を残す稲葉川を中心に、その傍に溶岩の石垣を築いてつくられた集落が位置し、谷の両側の山に向かって水田や畑が広がり、ここにも溶岩の石垣がつけられています。

この地域では、溶岩台地の地形と一体になった里の多様な生物相と豊かな水が作り出す自然美あふれる景観が見られます。これらの溶岩の石垣や養蚕農家といった溶岩台地という自然環境を利用して培われてきた人々の暮らしも守るべき景観の一つです。

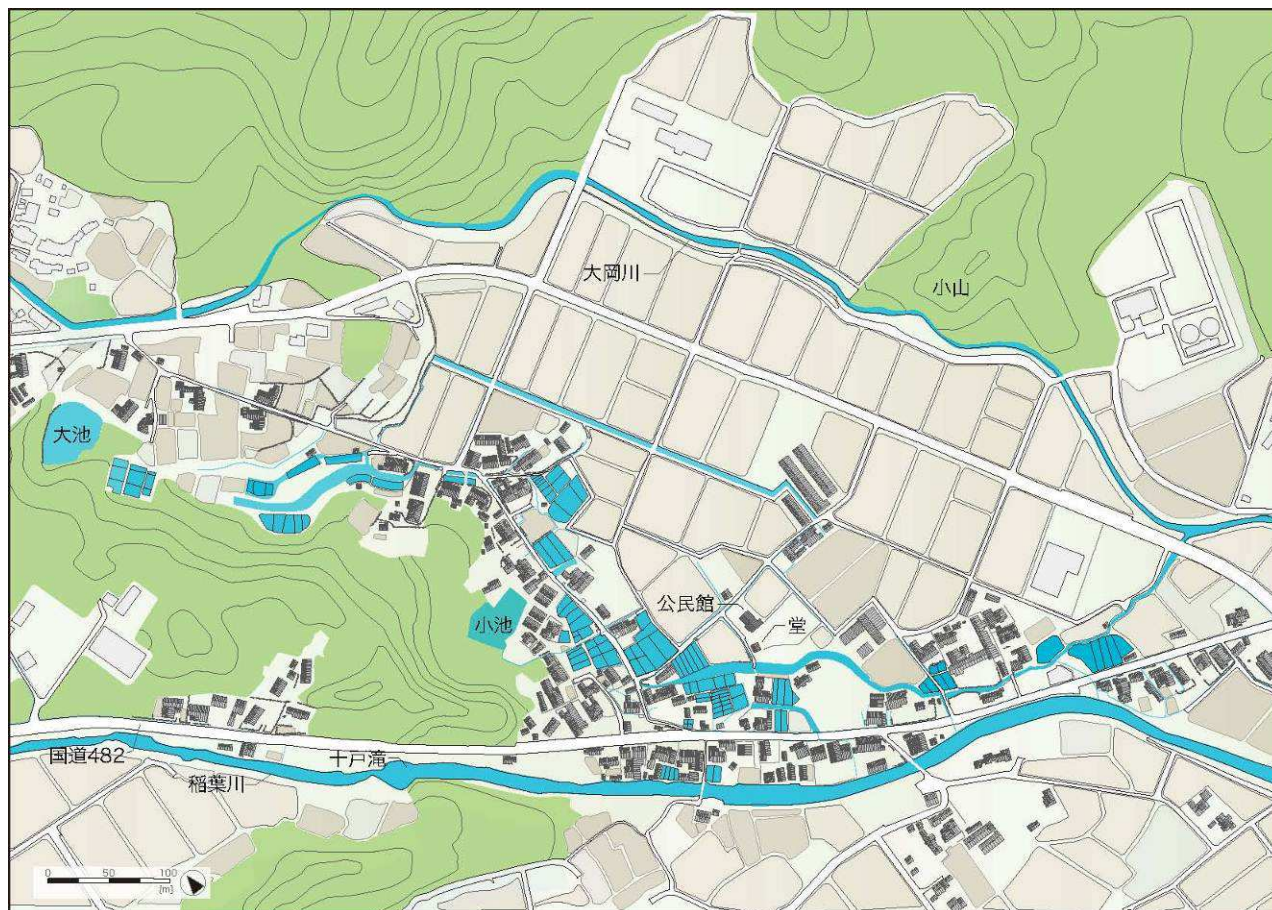


図 2.9 日高町十戸地区の平面図



竹野川沿いに連なる水田と集落(竹野町林)



出石川沿いに連なる水田と集落(但東町平田)



湧水を利用した養魚池などがある集落
(日高町十戸)



溶岩台地の稲葉川沿いの集落
(日高町栃本)

②「谷間集落」

但東町東里^{とうり}や奥矢根^{おくやね}、日高町万場^{まんば}や羽尻^{はじり}、竹野町須野谷^{すのたに}に代表される地区が「谷間集落」です。

出石川、太田川、稲葉川、竹野川を中心として長く続く谷に対して、そこから両側の山の方に深く入り込んだ谷に位置する集落です。山側の奥へと延びる小さな谷の中で山に包まれるように位置し、谷川の水と豊かな自然が織りなす溪谷美が特徴で、標高がやや高くなるため、下方に大きなゆったりとした谷を見下ろすような風景が広がっています。高低差のある地形のため、屋敷地は石垣で築かれ、谷川を挟んで民家が位置しています。

但東町東里は山からの水が流れる溪谷に沿って小さな谷の中に集落を形つくっています。谷川は山からの水が豊富に流れ、せせらぎの音が心地良い自然溢れる景観をみせており、東里ヶ岳から深い谷に位置する集落とその周辺の棚田や畑、鎮守の森が溪谷と一体となり、山と谷に守られたような山里らしい景観をみせています。集落からは、太田川がゆったりと流れる谷を俯瞰^{ふかん}でき、その北側の高龍寺ヶ岳を中心とする山々へつながる地形と自然の美しさを感じさせる景観が特徴となっています。



山に包まれた集落(日高町羽尻)



山に包まれた集落(竹野町須野谷)

山(東里ヶ岳)に包まれた集落
(但東町東里)谷川を挟んで石垣がある民家が立ち並ぶ
(但東町東里)

③「高台集落」

竹野町三原や川南谷、^{かなんだに}但東町高龍寺などが「高台集落」にあたります。

谷から山の方へ上がった所に位置し、高台のようになった開けた場所にある集落で、山の斜面の傾斜が比較的緩やかな地形の所に立地するため、空が大きく感じられ、周辺の山々と一体となった広がりのあるのどかな里の風景を感じることができます。

竹野町三原は、細く深い谷から 100mほど上がった辺りの高台のように開けたところに集落が立地しています。民家と農地が傾斜地に段状に点在し、それらの農地では牛が放牧され、色とりどりの花が植えられ、のどかで広がりがある里の牧歌的な景観が見られます。民家が立地する所から南西に少し下がった所には棚田が位置しており、集落内の水路には、山からの豊富な水が流れ、せせらぎの音が心地良く感じられます。

冬は積雪が多く、時には3m近く雪が積もるような雪深いところであり、そのため、雪除けの囲いが屋敷を囲むように設けられ、水路の水を屋敷裏側の小さな池に引水し、融雪に利用しているところが多く見られます。

深く大きな周辺の山々と、高台に位置する広がりのある里と、その下に流れる細い谷、さらにその谷の反対側の山々へと広がる雄大な景観が特徴です。



谷から上がった開けたところにある集落
(竹野町川南谷)



谷から上がった開けたところにある集落
(但東町高龍寺)



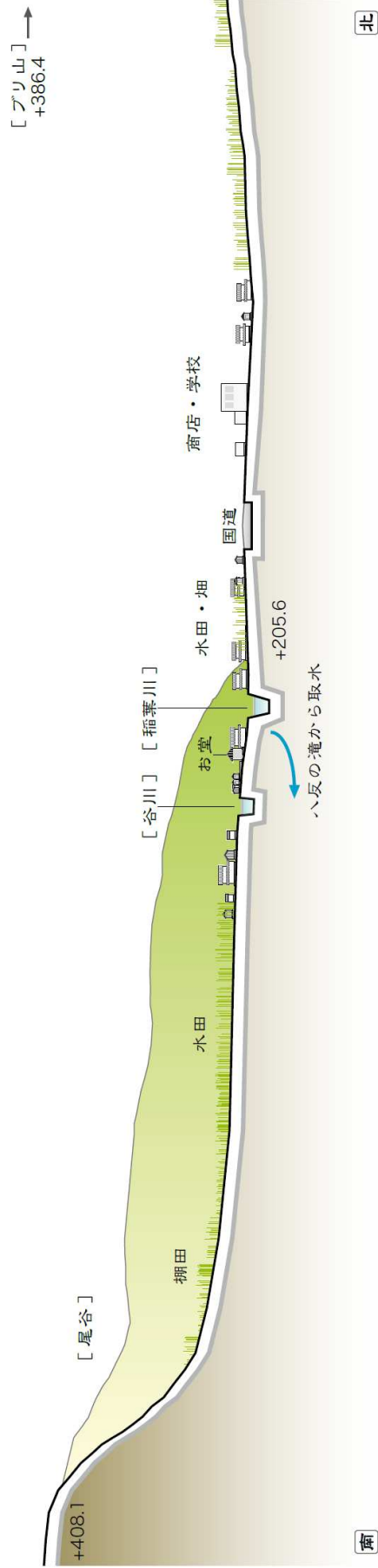
細く深い谷の奥に開けた(竹野町三原)



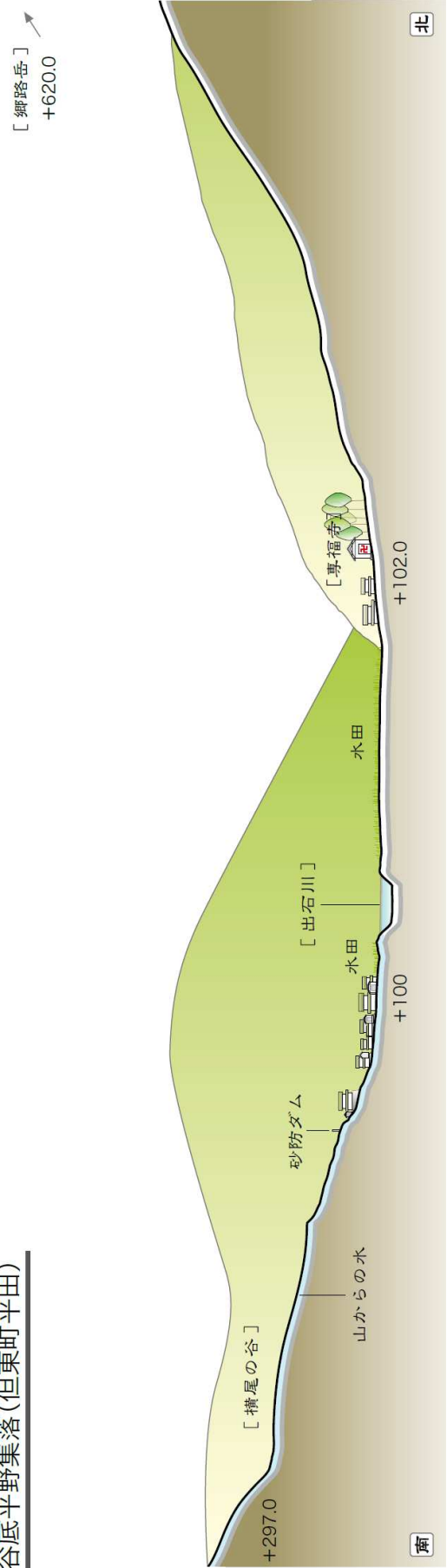
集落段状に立地する農地と民家(竹野町三原)

谷沿い集落

① 谷底平野集落(日高町栃本)

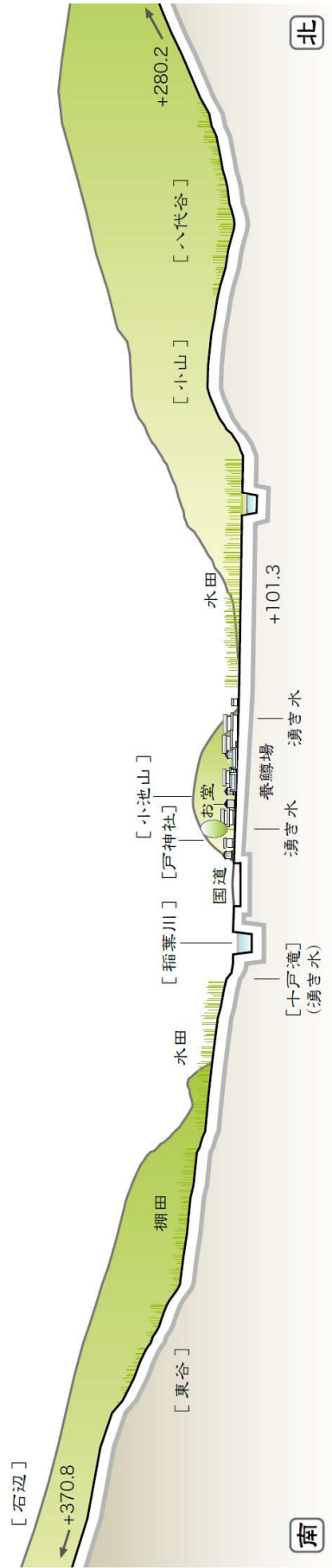


① 谷底平野集落(但東町平田)



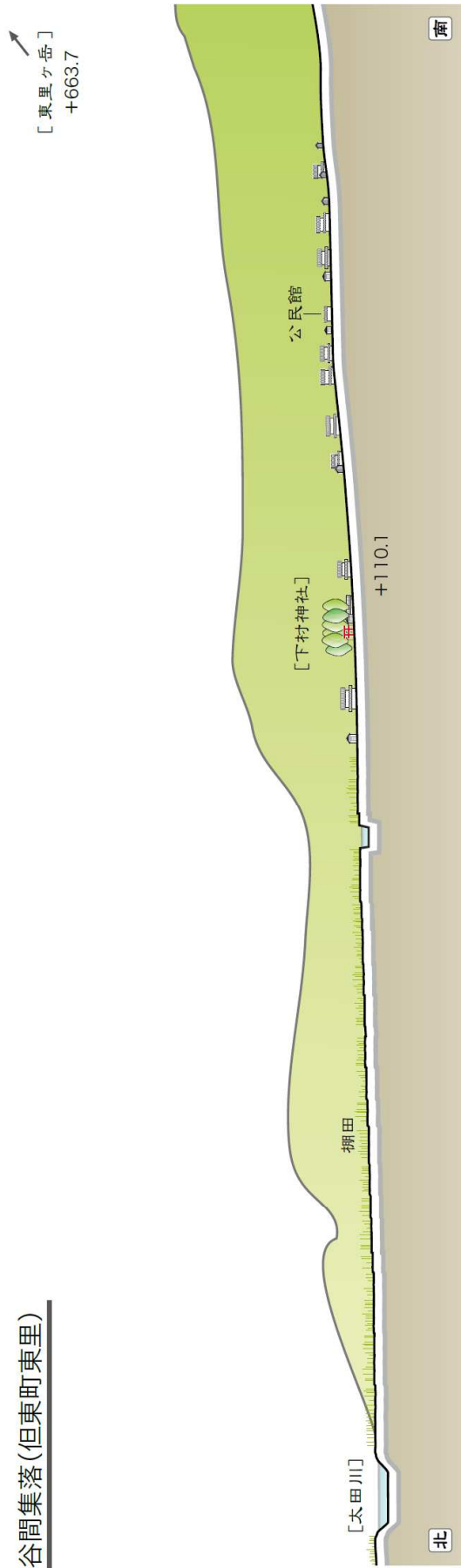
谷沿い集落

① 谷底平野集落(日高町十戸)

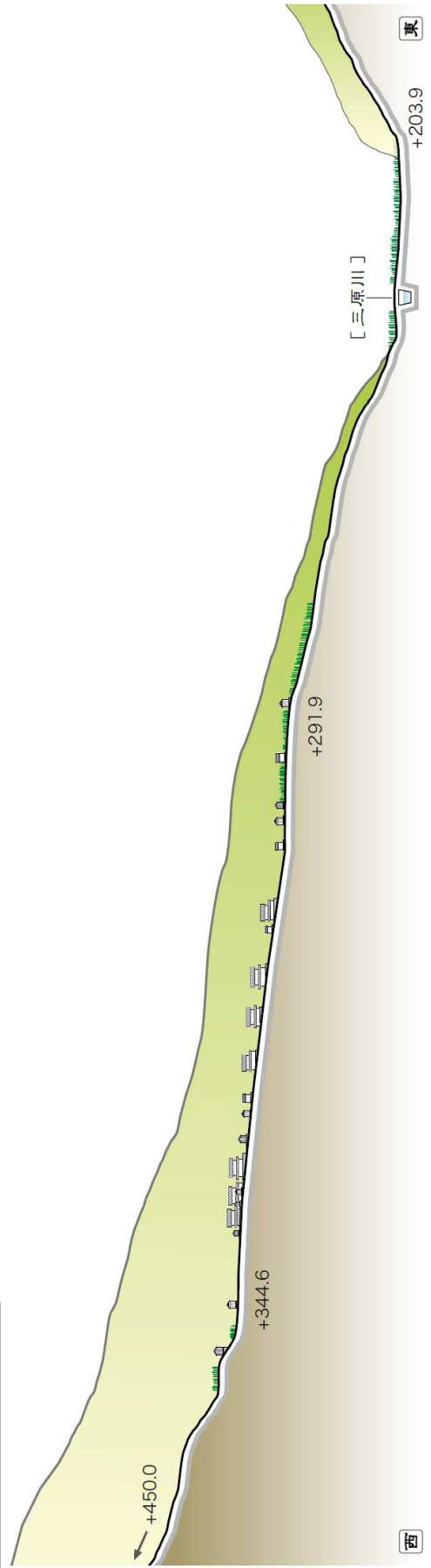


谷沿い集落

② 谷間集落(但東町東里)



③ 高台集落(竹野町三原)



3)沿岸集落景観

日本海に面した山陰海岸沿いに立地する集落であり、世界ジオパークに指定されて但馬海岸と称されています。リアス式海岸を主とし、山が海へ迫り、平地が少なく、岬や入り江や浜が複雑に入り組んだ海岸を形づくっています。入り江には漁村集落が点在し、特徴的な地形と人々の暮らしが織りなす美しい景観を見せており、狭い入り江に立地する「海際集落」と、竹野川や円山川等の「河口・漁港の集落」に分けられます。

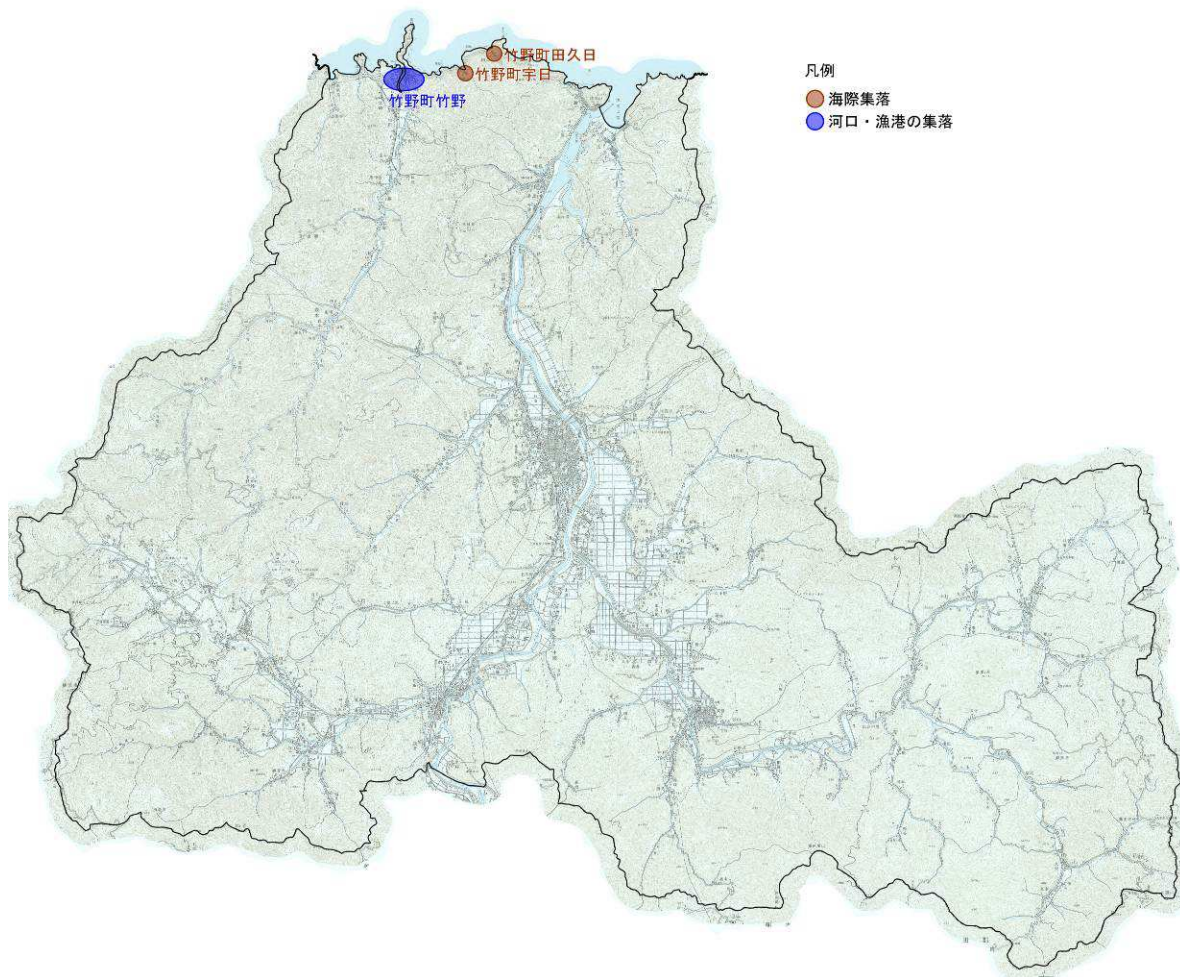


図 2.10 代表的な沿岸集落位置図

①「海際集落」

竹野町田久日^{たくひ うひ}や宇日に代表される地区が「海際集落」です。

複雑な地形を見せる海岸線に位置する狭い入り江の谷に立地し、岸には舟が並び、わかめを干している（海草類の収穫）様子が漁村らしい景観を見せています。竹野町田久日は平井ノ鼻^{ひらいのはな}の岬西側の切り立った狭い谷の入り江に面して集落が立地しており、集落から見える海は、谷の形に切り取られるように地形によって遮られ、海には大島、赤島、横島が浮かんでいます。

集落は狭い谷地に密集して形成され、下見板張りの民家が路地を挟んで谷川に沿っ

て並び、美しい漁村集落の景観を見せています。細い路地が家々を結び、傾斜地に立地するため、その家並みの向こうに岬の岩壁と海が見えています。

集落の南側は高い山が谷を覆い、複雑な海岸線のために田久日の谷に入らなければ集落は見え、山と海が集落を包み込んだような景観からか、竹野町田久日や宇日には平家伝説が伝えられています。耕地は、谷伝いにわずかに残っていますが、かつては山中や海岸側の比較的平坦な所を選んで畑や水田がつくられていました。岬の見晴らしがよいところや山の上からは、天気の良いときに能登半島や白山が望めるそうです。海上から見ると、来日岳や猫崎半島が特徴的な形を見せ、漁などで目標となっています。

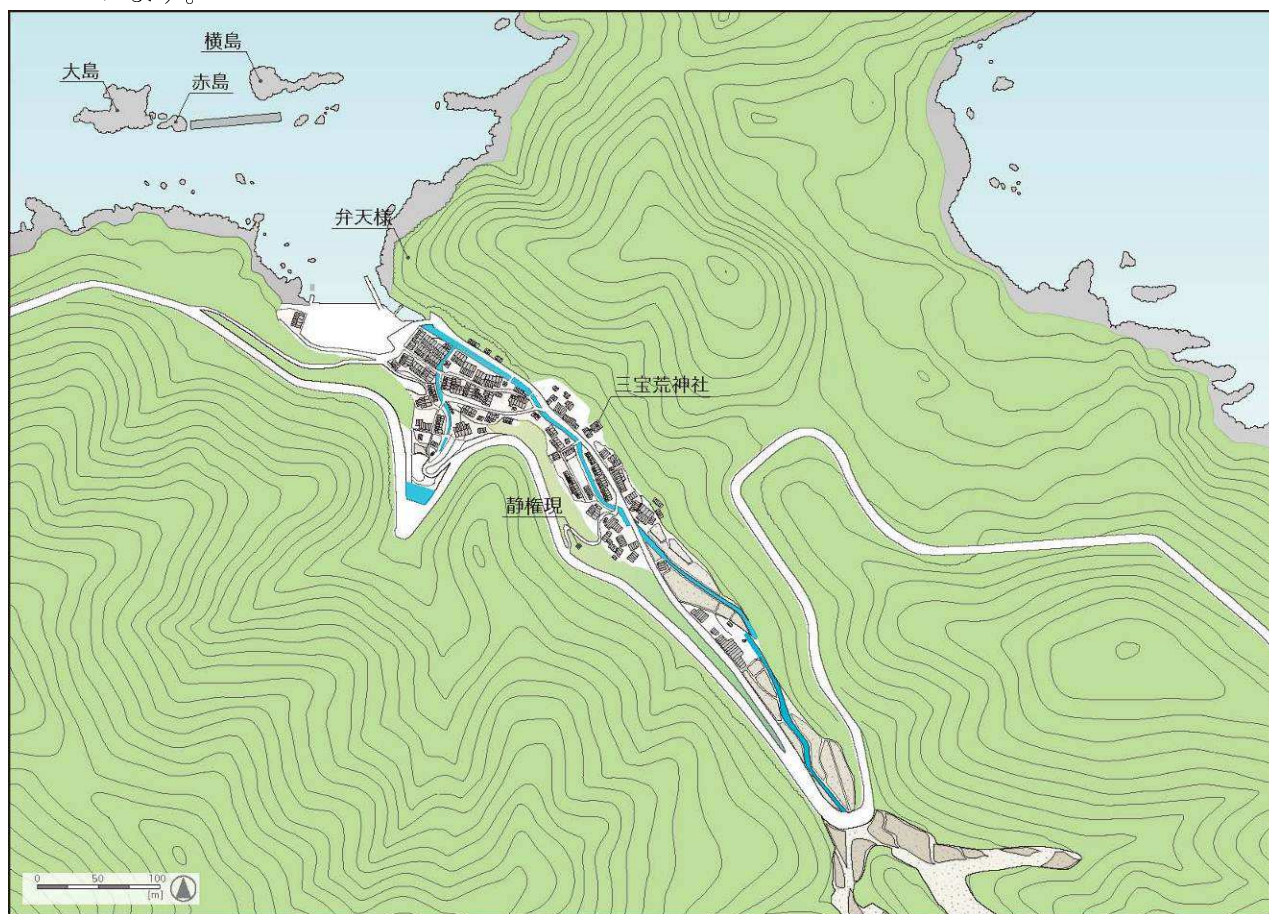
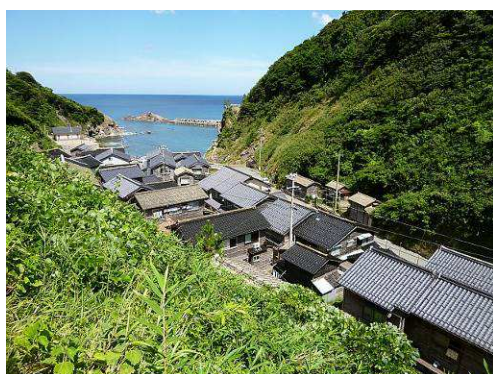


図 2.11 竹野町田久日地区の平面図



狭い入り江の谷に密集する集落
(竹野町田久日)



傾斜地に立地する民家と細い路地
(竹野町田久日)



海と山が包み込んだ集落(竹野町宇日)



下見板張りの家並みが続く細い路地
(竹野町宇日)

②「河口・漁港の集落」

竹野町竹野に代表される地区が「河口・漁港の集落」です。

美しい浜と岬や半島と河口、漁港や家並みと路地、その南に広がる農地と山といった、山と川と海が織りなす多様な地形と暮らしが、一体となった漁港の景観を見せています。

竹野町竹野は、竹野浜に代表される白く続く美しい砂浜と松林があり、そこから海へ伸びる猫崎半島が特徴的な景観を見せています。また、猫崎半島は沖に向かって長く伸びた陸繋島^{りくけいとう}であり、浜からも沖の舟からも重要なランドマークとなっています。竹野から見る日本海の朝日と夕日の美しさは、山陰海岸の地形の美しさを代表する景観です。集落は、いぶし銀の瓦屋根に下見板張りの民家が並ぶ家並みが美しく、家々が並ぶ路地が集落を構成しています。この路地を通して浜や川へ、山や寺社へと繋がる路地のシークエンスが特徴的で、竹野浜や弁天浜へ続く路地からは、下見板張りの家並みの向こうに松が見え、その向こうに浜が広がっています。また、竹野川へ続く路地は川や船着き場へと繋がっています。



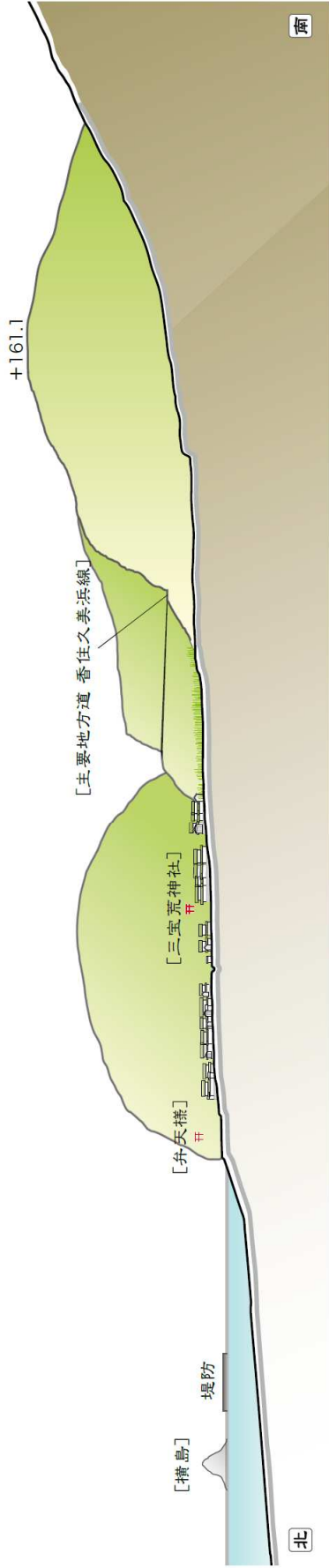
竹野浜と猫崎半島(竹野町竹野)



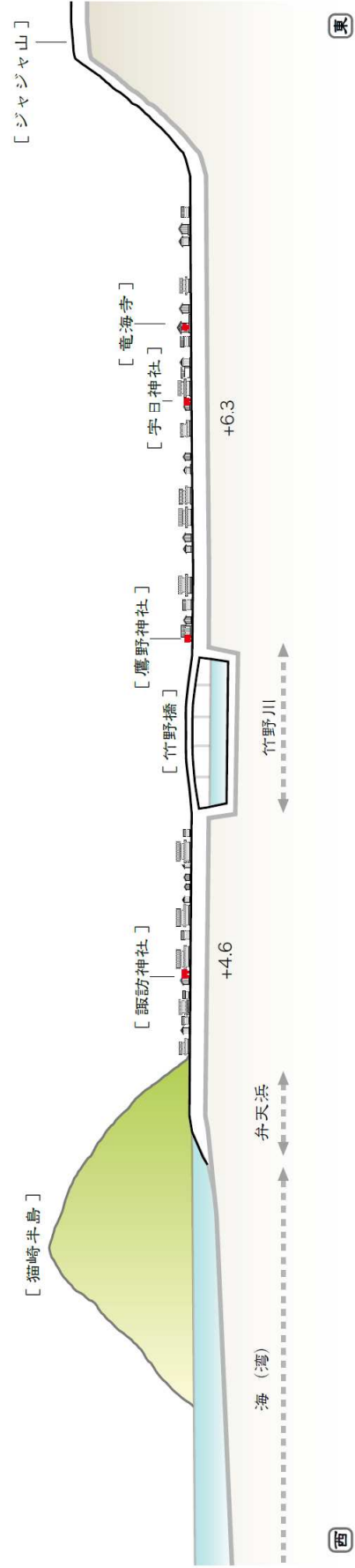
下見板張りの家並みが続く路地(竹野町竹野)

沿岸部集落

① 海際集落(竹野町田久日)



② 河口、漁港の集落(竹野町竹野)



2 まちの暮らしや生業の景観

兵庫県のなかでも最も市域が広い豊岡には、古代の要衝の地として国分寺が置かれた日高や、出石や豊岡の城下町など、但馬の拠点となった歴史を持つ「町」があり、また城崎温泉や津居山漁港のような生業がまち並みを特徴づけている「まち」もあります。また、街道や水運の拠点として形成された「まち」もあります。地域の集落と共存しながら広域の流通交通ネットワークとつながり賑わいの中心となってきた「まち」は、それぞれに成り立ちが異なります。

出石も豊岡も城下町を起源とする町ですが、現在の町並みは随分違います。同じ城下町から始まっても、豊岡では明治以降の近代化のなかで城下町と併存するように近代都市の基盤整備と市街地の拡大が行われましたが、出石は城下町の基本を維持しつつ穏やかに変化してきました。こうした違いが町並みに現れます。また、近代の計画的開発によって形成されたまちがあり、町家や民家など伝統的な家並みとは異なる町並みが見られます。

また、ライフスタイルや住まいのつくり方は、時代とともに変わり、まちなかでも仕事と居住を分離する暮らしが多くなることにより、町家型の住まいから専用住宅の住まいが中心になり、郊外での住宅地開発が求められます。そうした暮らしでは庭や緑の潤いが求められるようになり、新たな住宅地景観が形成されてきます。

こうした地域の暮らしの文化や生業の持続と変化が、「まち」の景観を特徴づけます。この「まち」の景観は、城下町の町割や町家などの歴史的資源がまちを特徴づけている「**歴史からよむ景観**」、地域の地形風土や立地を活かした営みに特徴がある温泉宿や港町、街道筋などの「**生業からよむ景観**」、計画的に近代化を進める新たな都市整備によって形成されてきた「**開発からよむ景観**」の3つに分類することができます。